

長崎だより

長崎の情報を
お届けします

FFG調査月報の姉妹誌「ながさき経済」を発刊している、ふくおかフィナンシャルグループの長崎経済研究所。長崎の旬な情報を提供するコーナー「長崎だより」の今月号は、株式会社フジシタ 取締役 川鍋 明日香様に「発明親子の奮闘記 発明農機具ジャガールとブルガール 農機にかける親子の思い」と題し、寄稿していただきました。

長崎経済研究所による「ながさき経済web」随時更新中!



当研究所が発信する最新の情報をメールでお届けします。

メールマガジンの登録はこちら▶



お問い合わせ

株式会社長崎経済研究所

長崎市銅座町1番11号
十八親和銀行本店内
TEL095-828-8859



ながさき経済web画面

長崎経済研究所とは

長崎県の経済・社会・産業動向などに関する調査研究及び企業経営や県民の生活のお役に立つ情報をご提供するとともに、各種経済・文化団体の事務局活動等を通じて、地域社会に貢献することを目指しております。





発明親子の奮闘記

発明農機具ジャガールとブルガール 農機にかける親子の思い

寄稿 川鍋 明日香



左から筆者、娘、ジャガール、父・藤下賢一



Profile



ホームページ

株式会社フジタ
取締役
かわなべ あすか
川鍋 明日香

- 1983年 長崎県雲仙市愛野町生まれ
3姉妹の次女
- 2003年 福岡大学商学部貿易学科入学
- 2007年 株式会社リクルート入社
- 2010年 株式会社フジタ(旧藤下機械店)入社
- 2012年 じゃがいも種芋植え付け機ジャガール開発
- 2019年 じゃがいも収穫機ブルガール開発

父の油で汚れた真っ黒な手が
大嫌いだっただ小さい頃

「明日香！また風呂掃除忘れと
るやる！ちゃんとしなさい」

祖父の代から始まり、父が継いだ
藤下機械店。農業機械の販売や修
理をするお店でした。

父、母、社員、合計3名の小さな
お店。父の手はいつも油で汚れて
真っ黒。そんな父の油臭い手が嫌い
でした。母は経理やお客様への接客
対応で忙しく、家事は三姉妹で担
当。担当する家事が終わらないと遊
びに行けず、「自営業じゃなかったら
もっと遊べるのに」と両親への不満



爆発の子供時代でした。

実家を手伝うなんて一度も思ったことはありませんでした。

ポンコツのリクルート時代

株式会社リクルートに入社できたものの、新人時代の私は本当にポンコツでした。朝4時まで企画書を作り非常階段で仮眠していました。取引先の社長や上司を怒らせることは日常茶飯事。心も体もボロボロになり、入社半年でうつ状態になってしまいました。「このままだと、先を考えなきゃいけない」事実上のクビを宣告もされました。

実は父が発明家だと気づく

なんとか社会人としてまともになつてきた営業4年目の時に父から1本の電話が。「発明したじゃがいも種芋植え付け機を雲仙市の助成金事業に申請したい。俺は字を書くのが苦手だから、明日香が企画書



ジャガールの試験の様子(左が父)



開発している様子

を作ってくれないか?」との相談でした。「じゃがいも種芋植え付け機?よくわからないけどいいよ」と返事をし愛野へ向かい父に発明した背景を聞きました。

「親父から引き継いだ時に借金は7000万あったんだ。がむしゃらに働いてやっと今がある。けどただ仕入れて売るだけでは食っていけない。そこで発明したのが種芋植え付け機だ。この機械が売れなかつたらゆくゆくは廃業しようと思う」

農家のお客様に使ってみた感想を聞きにも行きました。「社長がいないと農業はやっていけないよ」、「83歳だがこの植え付け機があればこの先10年じゃがいも作れる。歩かなくていいから楽」。

感想を聞いた農家様は口々に、父や植え付け機のことを褒めてくださいました。じゃがいもについて知りたい。調べてみると、じゃがいも生産量の第1位は北海道、3位は長崎県で、雲仙市はじゃがいも生産の一大産地だということ。近年では高



じゃがいも種芋植え付け機 ジャガールタンク ※現在はジャガールタンクという名称になりました。

齢化が理由で離農する農家が増えてきていること。北海道で使われている機械は大きすぎて長崎の狭い畑では使えないこと。大手企業はマーケットが小さいので狭い畑に合う機械を作らないことがわかりました。

お客様によると、今までの植え付け方法は1日約20キロ歩きながら植え付けするとのこと。植え付け期間が約1週間だとすると、ハーフマラソンが1週間続く過酷な作業。また、歩きながら種芋をベルトコンベアに1つずつ手に入れる作業は、夕方になると握力がなくなり泣きながら家事をしなければならずつらいこと。父が発明した植え付け機なら座って植え付けできるので歩かなくてよくなる。さらに、ほぼ自動でベルトコンベアに種芋が入るので、作業が格段に楽になります。

小さい頃は嫌だった父の真っ黒い手。お客様の言葉やじゃがいも栽培について調べることで、父の手は長年お客様の為に農機具の修理や改良をしてきた努力の証だと気づきま



した。初めて父がやっている仕事の意味や価値を肌で感じました。

父が発明した植え付け機の魅力に気づき始めた矢先、父が機械の下敷きになり重傷を負ってしまいました。一命をとりとめ現場に復帰したものの、私はこの事故を機に決意しました。「父が40年培ってきた植え付け機を世の中に伝えられるのは私しかない。愛野に戻ろう」

テレビ・新聞・雑誌に合計88回取り上げて頂く

作った企画書をバッグの中に入れて、会う人全員にジャガールのことを伝えました。その結果、投資顧問会社の方が「面白いね」と興味を持って下さり無料でアドバイスを頂きました。植え付け機にジャガールとネーミング。じゃがいも大好きな女の子ジャガールになり、赤いつなぎを着て父と一緒に畑に実演に向かいました。自社ホームページは全くの素人でしたが、約2年かけて

制作。開発費を捻出する為にキューテックに応募。300万円助成して頂きました。メディア掲載は、現在までに「日本のチカラ」や、「ぐっ！ジョブ」などテレビ・新聞・雑誌に合計88回取り上げて頂きました。商標や特許も積極的に取得。ジャガールは2012年販売開始から現在まで、日本全国や海外に合計200台販売しました。

父の新たな挑戦

「藤下社長、今度はじゃがいも収穫機を発明してくれないか。一番きついです」きっかけはお客様からのご相談でした。父はじゃがいも収穫機の開発に着手。収穫機の試験が連日続くこともよくあり、試験で上手いかなかった部分を深夜12時まで改良し、次の日の実演に挑んでいました。

3年の開発期間を経て2019年にじゃがいも収穫機ブルガールが完成しました。お客様からは、「今ま

では10人でやっていたが今は2人でできるので効率が上がった」「じゃがいも栽培30年の中で、最速でじゃがいも収穫作業が終わった」などお喜びの声を頂いています。

商工会の小規模事業者持続化補

助金や国が設置した無料の経営相談所のよろず支援拠点を活用してブルガールの商品ページ、PR動画などを製作しました。現在ブルガールは全国で40台販売しています。



じゃがいも収穫機 ブルガール



改良について若手と話し合い中



ロケット教室では11機発射成功



農家様とのやりとりの様子

今後の展開

今後もお客様に求められる農機具店であり続ける為に大切にしたいことが3つあります。

1. 社長の技術を次世代に継承

現在2名の社員が社長の技術を継承すべく頑張っています。

2. 農業機械の開発

現在トラクターに取り付ける、一度に2列じゃがいも種芋を植え付けできる機械を開発中です。

3. 業種を越えたつながり

フィリピン中央大学と共同開発プロジェクトに取り組んだり、株式会社植松電機の植松努社長のロケット教室を弊社で開催したりしています。福岡大学の教授やお客様のお孫さん、地域の子供達や保護者の方やプロのダンサーなど業種を越えて弊社を知ってもらおう取り組みにも力をいれています。今後も、フジシタを知って頂けるように楽しみながら関わってまいります。